

1. 研究内容について

**釧路支部主題 『自ら運動と向き合い、夢中になれる子供の育成』  
～つながる体育学習～ (2017～)**

<主題・副題の解説> 目指す子どもの姿

- 自ら運動と向き合う →自ら問題を見付ける、自ら課題を設定する(選ぶ)、自ら解決方法を選ぶ  
自ら表現(交流)する
- 夢中になれる →運動に没頭する姿、人目を気にせずに運動
- つながる →友達と…、授業が…、技能が…。思考が…、日常に…、体力向上に…。

<研究の視点>

**視点① 知識・技能のつながり～9年間のつながりに基づいた指導と評価**

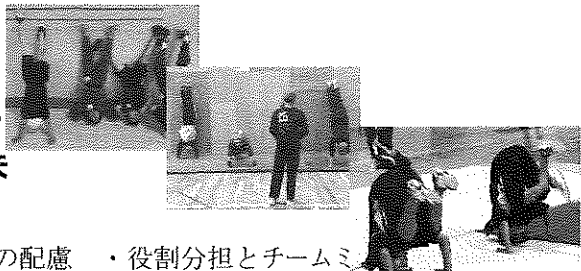
- (1) 子供の実態に応じた単元計画を立案
  - ・9年間のカリキュラムの活用 →
  - ・子供から見た特性から
  - ※教師＝運動の特性の丁寧な分析
  - ・体力向上につながる準備運動
- (2) 目指す子供の姿の明確化
  - ・どのような子供たちの姿で単元を終えたいかを明確に
  - ・個人の目指す姿、集団(学級・学年)としての目指す姿
- (3) 評価内容の明確化
  - ・観察の視点や意識するポイントを明確に

単元計画に  
スモールステップに  
ステップアップに  
指導言語に

『誰でも、いつでもパッと使える!』ものに!

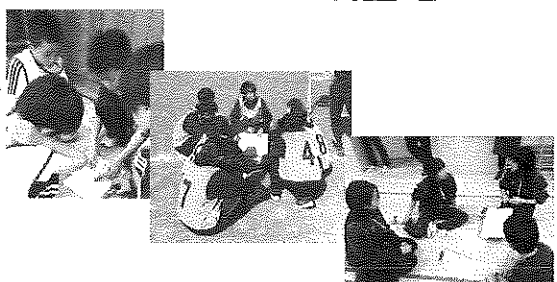
**視点② 主体的な態度・思考・判断・表現のつながり～必要感の伴う問題場面の設定**

- (1) 問題場面との出会い
  - ・問題を実感できる場面を作りだす教師の仕掛け～問題場面への出会い(学び、思考のきっかけ作り)
- (2) 課題の設定 と 解決方法の選択
  - ・問題場面から自分たちの課題を設定する(選ぶ)
  - ・課題を解決するための練習方法や場を考える(選ぶ)



**視点③ 学びに向かう力とのつながり～交流場面の工夫**

- (1) 意図のあるグルーピングと役割分担
  - ・リーダーの配置、技能差、コミュニケーション力等の配慮
  - ・役割分担とチームミ
- (2) 交流を活性化させるための工夫
  - ・全体共有の場
  - ・バディシステム
  - ・統一した視点
- (3) チームワークの意識の徹底
  - ・肯定的な雰囲気、支持的風土を醸成する



2. 研究推進日程

月に1回以上の研究部会を実施。今年度は、ここまで計12本の授業公開を実施。1月～2本予定。

### 3. 授業実践より

今年度の全ての授業実践では、本支部の視点に沿った授業評価アンケート（各項目5点満点）を実施し、客観的なデータをもとに授業改善を図ってきた。以下、成果を○、課題を●で示す。

#### (1) 鳥取西中 佐藤雄飛教諭 中2「バスケットボール」 (男17名/女17名 混合チームでの授業)

##### ① 視点1に関わって

###### ○子供の実態に応じた単元計画

～技能差の大きい集団という実態と「ボールにたくさん触りたい」「自分でシュートを打ちたい」という子供から見た特性に応じた計画。オーバーナンバーでのドリルゲーム・タスクゲーム、また守備者の妨害を受けないシュートゾーンを設けたゲーム等、ゴール型ゲームの特性を存分に味わう工夫が随所にみられ、夢中になる姿が見られた。

●スモールステップ、ステップアップの場・技能向上  
～パス、シュート、ドリブル等個人の技能を高め場や時間の設定に課題が残った。ドリル（タスク）ゲームの時間配分とともに、ウォーミングアップの工夫、ゲームやオフィシャルのないチームの活動の工夫が今後必要。

##### ② 視点2に関わって

###### ○問題場面との出会い

～前回までの映像を活用し、攻撃の問題場面（オフの動き）への意識づけがなされた。また、攻撃だけではなく守備での問題場面を提示したことで、守備が活性化し、よりオフの動きの必要感が生まれた。

###### ●課題の設定と解決方法の選択

～問題場面の提示を受け、自チーム（自分）に置き換え、課題を設定→解決するための場や時間が必要であった。課題意識がぼやけてしまった。

#### (2) 桜が丘小 小林啓聡教諭 小4「器械運動（跳び箱）」 (計45名の学年体育)

##### ① 視点1に関わって

###### ○スモールステップ、ステップアップの場・技能向上

～「全員で台上前転ができるようになる」ことを目標に単元が構成された。台上前転につながる活動の場が多く準備され、伸び伸びと課題に挑戦する姿が見られた。また、ウォーミングアップも本時につながる動きで工夫がなされていた。

##### ② 視点2に関わって

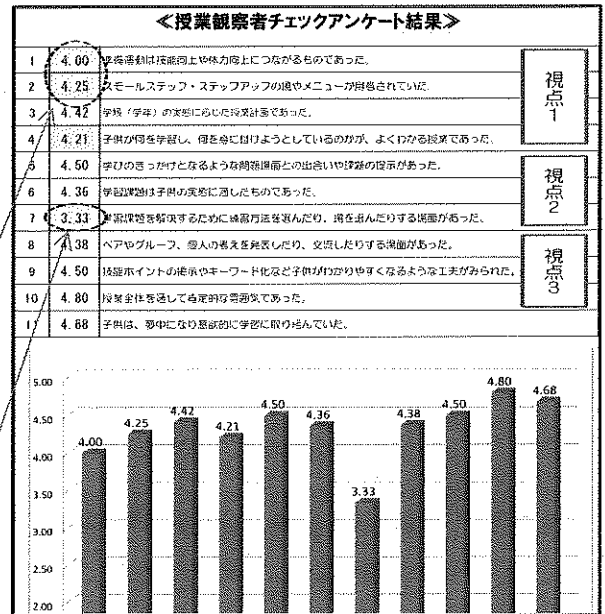
###### ●個人の課題解決とチーム活動のバランス

～個々の課題を解決することが目的であるが、活動が全てチームでの活動であった。アドバイスや補助等、支え合いの意味では効果的であるが1単位時間の中に個人で場を選ぶ時間を設けることによってさらに深まるのではないか。

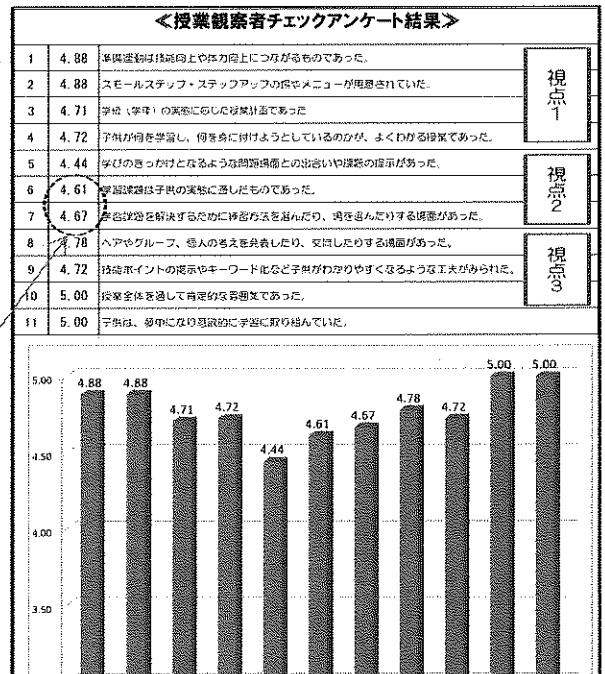
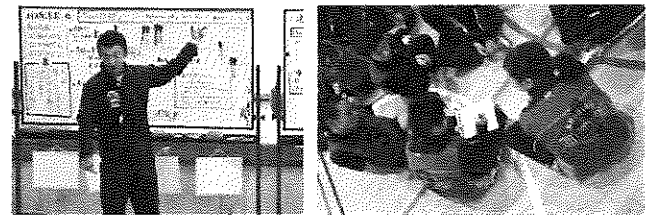
##### ③ 視点3に関わって

###### ○全体への共有・チームワークの徹底

～ここまで完成していなかった子供を取り上げて、見本として実演させていた。チームの仲間だけに限らず、学級（学年）から声援が送られ、見本の子供は台上前転を成功させた。終始、肯定的な雰囲気非常に良い授業であった。



佐藤 雄飛教諭 授業評価アンケート（24名回答）



小林 啓聡教諭 授業評価アンケート（18名回答）

